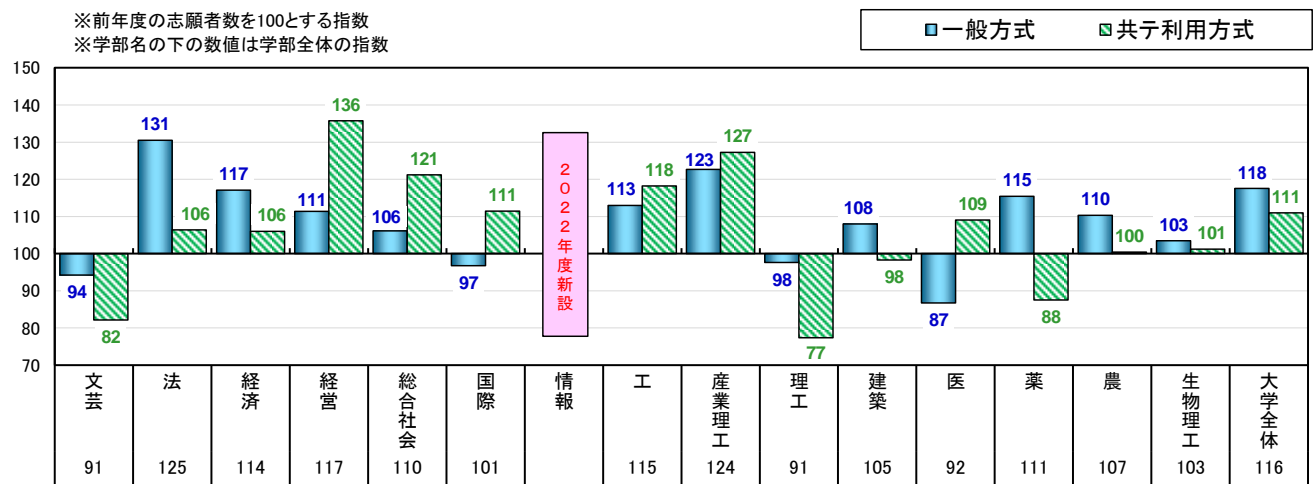


近畿大: 大学全体では情報新設で増加 志願者数は9年連続全国最多 一般:+17,196人 共テ:+4,145人



**主な入試変更点**

学部新設: 情報(情報) ※旧理工(情報)から改組  
 学科改組: 理工(応用化学、理、機械工、生命科学、情報、社会環境工、電気電子工)  
 →(応用化学、理、機械工、生命科学、社会環境工、エネルギー物質、電気電子通信工)  
 選抜方法: 工…〈共テ併用・後期〉を新規実施  
 募集人員: 文芸(芸術/造形芸術)…〈一般・前期A日程〉14人→11人、〈一般・前期B日程〉11人→14人、〈一般・後期〉3人→4人  
 工(機械工)…〈共テ・前期〉13人→11人  
 (ロボティクス)…〈共テ・前期〉10人→8人  
 (情報)…〈共テ・前期〉10人→8人  
 (建築)…〈共テ・前期〉13人→11人  
 (化学生命工)…〈共テ・前期〉10人→8人  
 (電子情報工)…〈共テ・前期〉10人→8人  
 薬(医療薬)…〈一般・後期〉13人→10人、〈共テ・後期〉4人→2人  
 (創薬科学)…〈一般・前期A日程〉9人→8人、〈一般・前期B日程〉9人→6人、〈一般・後期〉6人→4人、〈共テ・後期〉2人→1人  
 入試科目: 文芸(芸術/造形芸術)〈一般・前期A日程〉…国+外+(歴公 or 数)→実技 ※実技: デッサン

**COMMENT** ※ ( ) 内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、情報の新設に3年連続減少の反動が加わり 21,341人(116)の大幅増加で、志願者数は過去最高の 157,171人で9年連続全国最多。文理別では、理系9学部合計(121)で大幅増加だが新設の情報を除くと(102)の前年度並、文系6学部合計(111)は増加。なお、新設の情報は旧理工(情報)との比較では、募集人員は約1.4倍に対して、志願者数は2.3倍となり、学部になり学習・研究環境やカリキュラムが充実した効果は大きかった。方式別では、一般方式 17,196人(118)は大幅増加で4年ぶり増加、志願者数は再び10万人を超えた。共通テスト利用方式 4,145人(111)は増加で2年連続増加、志願者数は4万人を上回った。

- 〈一般方式〉
- 文芸(94)は、やや減少で4年連続減少。学科・専攻別では、唯一増加の(文化・歴史)(108)は5年ぶり増加、その他の5学科・専攻はいずれも減少で、特に(芸術/造形芸術)(66)は入試科目が教科試験から実技のみに変更の影響で、30%以上の大幅減少。
  - 法(131)は、大幅増加で2年連続増加。方式別では、〈前期B日程〉(139)は大幅増加で4年連続減少の反動、〈前期A日程〉(138)は大幅増加で2年連続増加、〈後期〉(90)は減少。
  - 経済(117)は、3年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、3学科全てで大幅増加。
  - 経営(111)は、増加で2019年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、(商)(128)は大幅増加で2019年度以降前年度の反動による増減が継続、(会計)(108)は4年ぶりの増加、(キャリア・マネジメント)(105)、(経営)(104)はやや増加。
  - 総合社会(106)は、やや増加で2年連続増加。学科・専攻別では、(総合社会/社会・マスメディア系)(114)は2年連続増加、(総合社会/環境・まちづくり系)(107)は、前年度大幅増加に引き続きやや増加。一方で、(総合社会/心理系)(94)はやや減少で3年連続減少。
  - 国際(97)は、コロナ禍の影響を強く受け人気低下している系統である影響で、やや減少だが5年連続減少。学科・専攻別では、(国際/グローバル)(98)は、微減だが5年連続減少。(国際/東アジア)(92)は2年連続減少。
  - 情報は、旧理工(情報)をもとに新設された。一般方式合計の募集人員143人に対し、志願者数は9,694人、志願倍率は67.8倍と全学部中で最も高倍率となった。旧理工(情報)との比較では、募集人員は47%増加だが、志願者数は約2.7倍と大幅に上回った。
  - 工(113)は、広島キャンパス設置だが、2年連続減少の反動で増加。学科別では、6学科全てが増加し、特に東大阪キャンパスでの情報新設効果もあって(情報)(132)の大幅増加が目立った。
  - 産業理工(123)は、福岡キャンパス設置だが、前年度12年ぶり減少に転じたが、再び増加で大幅増加。学科別では、(生物環境化)(157)は60%近い大幅増加で2018年度以降前年度の反動による増減が継続。(電気電子工)(149)、(情報)(124)は2年連続減少の反動で大幅増加、(建築・デザイン)(109)は増加、(経営ビジネス)(100)は微増。
  - 理工(98)は、微減で前年度の大幅減少に引き続き減少。ただし、情報の学部新設に伴い募集停止となった旧(情報)を除くと(123)の大幅増加。募集人員は旧(情報)を除いた比較では増加(募集人員の前年度対比指数 110)だが、志願倍率は28.7倍→

32.1倍へアップ。学科・コース別では、9学科・コース中旧(電気電子工)から改組の(電気電子通信工)を含めた6学科・コースが増加。

- 建築(108)**は、2年連続減少の反動で増加。方式別では、〈前期B〉(113)は前年度大幅減少の反動で増加、〈前期A〉(111)は2年連続減少の反動で増加、〈後期〉(79)は大幅減少。
- 医(87)**は、前年度大幅増加の反動で減少。方式別では、〈前期A〉(92)は前年度5年ぶりに増加に転じたが再び減少、〈後期〉(74)は大幅減少で2年連続減少。
- 薬(115)**は、大幅増加。4年連続減少の反動に加え、コロナ禍におけるワクチンや治療薬開発の話題が多く報道されたことも影響。学科別では、特に4年制の製薬系の(創薬科学)(131)が大幅増加、募集人員は減少(募集人員の前年度対比指数75)なので、志願倍率は24.0倍→41.7倍へ大幅アップで競争激化。(医療薬)(112)は増加で5年ぶり増加。
- 農(110)**は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(水産)(100)のみ微減だが、その他の5学科はいずれも増加。特に、(生物機能科学)(131)、(農業生産科学)(124)の大幅増加が目立った。
- 生物理工(103)**は、4年連続減少の反動はなくやや増加に留まり、志願者数も2年連続3,000人を下回った。学科別では、(生物工)(111)、(人間環境デザイン工)(110)は増加、(生命情報工)(103)、(遺伝子工)(103)はいずれも前年度大幅減少の反動はなくやや増加。一方で、(医用工)(93)はやや減少で2年連続減少、(食品安全工)(96)もやや減少で4年連続減少。

#### 〈共通テスト利用方式〉

- 文芸(82)**は、大幅減少。学科・専攻別では、(芸術/造形芸術)(101)は微増で2年連続増加だが、(文化・歴史)(95)のやや減少を除くその他の4学科・専攻はいずれも大幅減少。志願者数は2,000人を下回った。
- 法(106)**は、系統への高い人気からやや増加で2年連続増加。方式別では、実施2年目となる〈共テ併用・A日程〉(121)の大幅増加が目立った。
- 経済(106)**は、やや増加で2年連続増加。学科別では、(総合経済政策)(121)は大幅増加、(経済)(103)はやや増加で、いずれも2年連続増加、(国際経済)(100)は微減だが4年連続減少。
- 経営(136)**は、大幅増加で2年連続大幅増加。学科別では、4学科全て大幅増加だが、特に、(商)(161)は激増で2年連続大幅増加。
- 総合社会(121)**は、前年度大幅増加に引き続き2年連続大幅増加。学科・専攻別では、(総合社会/社会・マスメディア系)(131)、(総合社会/心理系)(117)は大幅増加、(総合社会/環境・まちづくり系)(111)は増加で、いずれも2年連続増加。
- 国際(111)**は、コロナ禍の影響を強く受け人気低下している系統だが、2年連続減少の反動で増加。学科・専攻別では、(国際/東アジア)(124)は大幅増加で2年連続増加、(国際/グローバル)(108)は増加で2年連続減少の反動。
- 情報**は、旧理工(情報)をもとに新設された。共通テスト利用方式合計の募集人員45人に対し、志願者数は2,669人、志願倍率は59.3倍、全学部中で建築75.2倍、医74.7倍に次ぐ高倍率となった。旧理工(情報)との比較では、募集人員は25%増加だが、志願者数は58%と上回った。
- 工(118)**は、大幅増加で5年連続増加。新規実施方式の〈共テ併用・後期〉を除いても(116)の大幅増加。学科別では、全ての学科で増加、特に(電子情報工)(137)の大幅増加が目立った。
- 産業理工(127)**は、大幅増加で2019年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、特に(生物環境化)(159)、(電気電子工)(158)は60%近い大幅増加で目立った。
- 理工(77)**は、大幅減少だが、ただし、情報の学部新設に伴い募集停止となった旧(情報)を除くと(97)のやや減少。学科・コース別では、(機械工)(108)は増加で5年連続増加、(電気電子通信工)は改組された旧(電気電子工)と比較すると(104)のやや増加、その他の6学科・コースはいずれも減少。
- 建築(98)**は、前年度50%近い大幅増加の反動はなく微減に留まった。
- 医(109)**は、増加で2018年度以降前年度の増減による反動が継続。方式別では、〈前期〉(112)、〈中期〉(113)はいずれも増加、〈後期〉(92)は減少で前年度と逆の増減。
- 薬(88)**は、減少。特に、共通テスト後の出願期間で共通テストの平均点ダウンの影響を大きく受けた〈共テ・後期〉(49)が半減以下、ただし、募集人員の減少(募集人員の前年度対比指数83)で、志願倍率は32.2倍→33.8倍へアップ。
- 農(100)**は、前年度並。学科別では、(生物機能科学)(121)、(農業生産科学)(117)は大幅増加、(環境管理)(102)は微増。その他の3学科はいずれも減少。
- 生物理工(101)**は、微増だが2年連続増加。学科別では、(人間環境デザイン工)(132)の大幅増加、(医用工)(74)の大幅減少が目立った。